

八王子市教育委員会教育長 安間英潮様

八王子市教育委員会教育指導課長 大日向由紀子様

八王子市教育委員会御中

「教員不足」にたいして、

重ねて適切な対応をお願いします。

2023年5月

都教組八王子支部執行委員会委員長 佐々木清明

日々、八王子市の教育のためにご尽力いただきありがとうございます。

さて、私共は、昨年度末の3月20日、深刻化する欠員問題について、次のことをお願いいたしました。

(病気休職を、病気休暇・休職と改めました。)

1. 教育長答弁(3月3日八王子市議会)にある「年度途中においても、退職や産休・育休を取得する教員の代替を、市でも募集し名簿登載を行う中で、各学校に対して情報提供をする」活動をさらに強化すること。
2. 退職・病気休暇とそれに続く休職・産休・育休の代替教員が見つからない場合も、放置せず、時間講師を配置するなど、きめ細かい対応をすること。
3. 東京都に対して、欠員補充ができる体制を作るよう要望すること。
4. 各校の管理職に対し、退職や産休・育休・病気休暇・休職者の後補充ができない事態と、そのために起きている教育活動上の問題、教員の過剰労働の問題などを軽視せず、速やかに、事細かに市に報告するとともに、管理職自身が補教や給食指導、学級指導に入ることを含めた必要な手立てを講じるよう指導すること。

5. 市の責任で雇用できる「小中一貫担当教員」などを、年度途中であっても、必要な職場に配置すること。

6. 市で配置できる副校長補佐・学校サポーター・スクールサポートスタッフ、特別支援教室の指導補助員などの人員を、さらに大幅に拡充すること

残念ながら、今年は年度初めから、「副校長先生がいない。」「1年間休職する人の後に、専任の先生が来ない。」「育児休業の先生の分、代替教員がいなくて、2年生5クラス分の国語の授業ができない。2クラス合同でテレビ中継の授業をするしかない。」「病気休暇の後、退職する意向の先生の分でも、専任の教員は来ないのか。」「算数少人数の先生がいない。」「主幹の時間軽減がない。教務主幹の持ち時数が多いたいへん。小規模校でも時間軽減は確保すべき。」「新採のあと補充がない。」「近隣の学校で時間講師が不足というので、専任の先生が週一回その学校に行かなければならなくなった。ご本人の負担も大きいし、職場でほかの教員の負担も大きくなる。何より、先方での定期考査や評価はどうするのか。」などの声があります。「非常勤職員や時間講師で、頭数としては、授業ができるはずだが、曜日が限られ、時間割を組めない。」という声もあります。

すでに解決していたり、解決の見通しが出ている件もありますが、一度講師が見つかって解決したはずなのに、その方が辞退して再度問題が発生しているケースもあります。

当面の問題の解決にお力を集中していらっしゃることでしょうし、私たちも知り合いの元教員に連絡を取るなど、全力で協力しています。また、病気休暇に続く休職が1年以内では専任が来ないというのは、複数の病気休暇や休職の教員が出る今の事態では、制度そのものの見直しも必要と思われれます。

いずれにせよ、年度当初に万全の体制でスタートできなかったことは、教職員の負担を増しただけでなく、児童生徒、保護者や地域の方々にも不安をもたらしています。

さらに心配なことがあります。これから、専任の教員が少ないままスタートして、授業だけはかろうじて成り立っていても、分掌など全体の仕事はぎりぎりですべて進めていて、無理が重なり、年度途中の病気休職などでさらなる欠員が起きることです。そこで人員が見つからず、さらに深刻な問題が発生するのではないのでしょうか。昨年度の経過から見ても、とても心配です。

本来、これは東京都の責任で、八王子市教育委員会としても、すでに大変なご苦労をされ、お骨折りいただいていることと存じます。ご尽力に感謝するとともに、この実態を東京都につつみなく伝え、改善を強く要求することとともに、さきほどの6項目の実施を重ねてお願いいたします。